

【学力向上フロンティア事業中間報告書】(小学校用)

都道府県名 | 島根県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	松江市立古江小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	2	13	22
児童数	42	40	42	52	55	51	4	286	

研究の概要

1. 研究主題

学びのよろこびを感じながら  
 確かな学力を身に付けていこうとする子どもの育成をめざして  
 ~算数科におけるきめ細かな指導と読書環境づくりをとおして~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

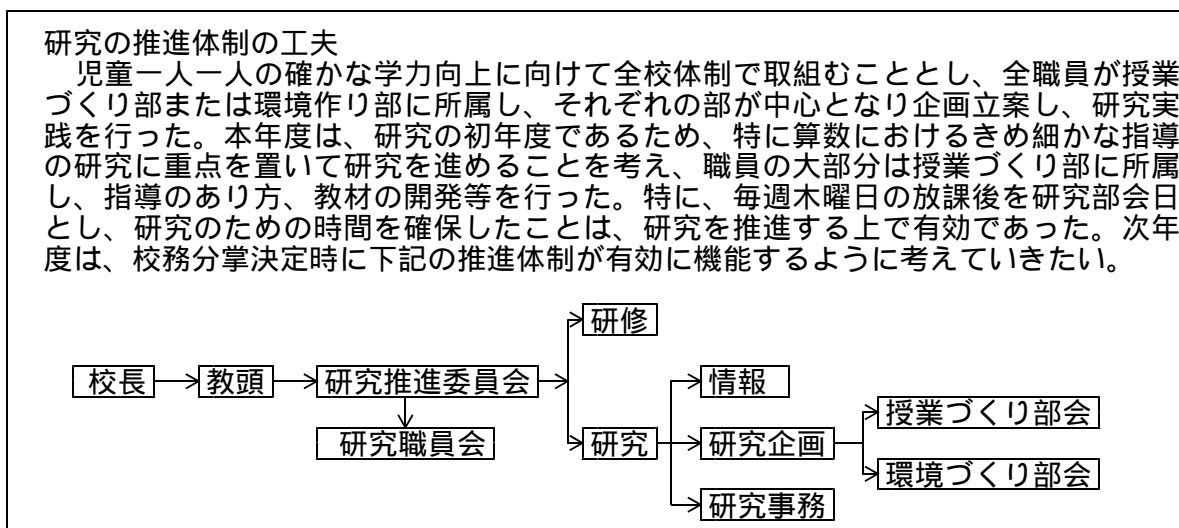
全学年・算数  
 ・児童は、学びのよろこびを実感した時、自ら意欲を持って確かな学力を身に付けていこうとする。算数科は、きめ細かな学習指導の実践により、児童が「分かる」「できる」「伸びる」等「学びのよろこび」を実感できる教科である。  
 ・前年度までに取り組んで来た算数科における少人数授業がさらに充実するように指導のあり方、教材の開発について研究を深めたい。  
 読書の習慣化・全学年  
 ・読書の習慣化により、児童の豊かな想像力を育て、新しい発見、未知の体験との遭遇、知的好奇心の深化・高揚等豊かな心の耕しができる。また、読書のよろこびを実感した児童は、生涯、本を友だちにした豊かな生活ができると思う。

(2) 年次ごとの計画

テーマ  
 学力テスト、学習への意識調査等により児童の学力等の状況を把握すると共に児童が身に付けなければならない確かな学力について全職員が共通理解し、児童の学力向上に向けて、指導の工夫、教材の開発等について研究し、実践する。  
 研究の見通し  
 算数科におけるきめ細かな指導のあり方を探り、実践することに重点を置く。  
 読書の習慣化については、昨年度から取り組んでいる朝読書の定着化を図ると共に、保護者の理解と協力を得て図書館の環境整備を行う等、習慣化の基盤となる環境づくりを行う。  
 研究の内容・方法  
 児童が学びのよろこびを実感できるきめ細かな指導の工夫と評価のあり方、教材の開発  
 ~算数科を窓口として~  
 分かる、できる、伸びることが実感できる授業の工夫(指導の工夫、評価のあり方、教材の開発) ~ ~ 学びのよろこびを感じる授業の構築 ~ ~  
 ・学力テスト、意識調査により、児童の学力、学習意欲等の実態の把握  
 ・T・T指導、課題別、習熟度別、等数分割少人数指導の実施  
 ・T・Tによる指導、少人数指導を効果的に生かす授業の工夫  
 ・学級担任1名による個に応じたきめ細かな指導方法の工夫  
 ・児童の学習意欲を高める教材の開発  
 ・学びのよろこびを実感させ、学ぶ意欲を育てる関心・意欲・態度における評価のあり方の探究  
 ・算数科年間指導計画の見直し  
 学びを習慣化させ、豊かな心を育むための環境づくりのあり方  
 ~読書の習慣化に向けて~  
 豊かな心が育ち、読書の習慣を身に付けることのできる環境づくりの工夫  
 ・朝読書の実践  
 ・保護者のボランティアによる朝の読み語りの実践  
 ・図書館の環境の整備  
 ・親子読書の実践  
 ・読書の習慣化に向けての保護者との連携

平成 16 年 度	<p>テーマ 研究副主題 ～算数科におけるきめ細かな指導と読書の習慣化に向けて～ 個々の児童の確かな学力の向上に向けて、指導体制の改善と指導の工夫、教材の開発を行う。また、読書の習慣化に向けて、よりよい方法を探り実践する。</p> <p>研究の見通し 15年度の研究成果や課題を踏まえた実践の修正及び実践研究内容、方法等の焦点化・拡充を図る。</p> <p>研究の内容・方法 学びのよろこびを実感できるきめ細かな指導の工夫と評価のあり方の探究、教材の開発 ～算数科を中心にして～ 児童が学びのよろこびを感じながら確かな学力を身に付ける授業の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が確かな学力を身に付けるためのきめ細かな指導の工夫 (複数教員によるもの、学級担任1名によるもの)</li> <li>・T・Tによる指導、少人数指導をより効果的にする授業展開の工夫</li> <li>・発展的な学習や補足的な学習等、個に応じたきめ細かな指導のための学習教材の開発</li> <li>・関心・意欲・態度による評価の工夫(「学びのよろこびを感じる単元構成」の工夫)</li> </ul> <p>豊かな心を育てるための読書の習慣化に向けての方策を探り、実践 朝読書の定着 親子読書の実践 家庭読書の習慣化 学級文庫の充実</p>
--------------------	--

### (3) 研究の推進体制



### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

児童が学びのよろこびを感じる授業の構築  
学力テスト、意識調査の結果を生かした授業づくり  
2学年でAAIを実施し、学習面、生活面で教師の支援が特に必要とされる児童については、児童を取り巻く環境(学習、友人、家庭等)を安定させることにより、当該児童が安心感を持ち、学習に意欲的に取り組んでいくようになった。また、学級担任は、児童が教師や仲間を支えられているという実感を持つことができる学級の仲間づくりに努め、算数科を中心とした授業の中で学びのよろこびを感じる授業づくりを心がけた。「学びのよろこびを感じる単元構成」で子どもたちのよろこびの姿を思い描いての授業づくり

従来の指導計画を「学びのよろこびを感じる単元構成」とし、指導者は、単元全体の中で個に応じたきめ細かな指導のために、学びのよろこびを感じる子どもたちの姿を思い描きながら単元を構成し、1時間の授業の中にも明確に位置づけて取り組んだ。また、指

導者による児童の評価、児童相互の評価に生かすようにした。この実践を進める中で、指導者の個々の児童を見る目が磨かれてきている。

T・T指導、少人数授業による個に応じたきめ細かな授業の実践

算数科の年間指導計画を見直し、基礎的な力を身に付けていくことができるように単元の配列を構成した。また、少人数授業が有効となる単元を明確にし、その単元については、指導者が綿密に打ち合わせを行い授業に臨んだ。これらの学習については、児童の心に残る授業にも挙げられ、学力の定着にも効果が見られた。

読書の習慣化に向けての環境づくり

保護者の理解と協力を得ての図書館の環境の整備、読み物図書の充実等により、読書に楽しみを感じ始めた児童が増え、本を気軽に手にする姿が見られるようになってきた。また、学級担任自身が朝読書の効用を認識し、週1回の実施が2回へと増え、読書の習慣化に向けてよりよい歩みを進めている。

## 2. 今後の課題

指導体制の見直し—全学年が複数教員で指導する体制に

研究体制と校務分掌の一致—研究推進がスムーズに機能する校務分掌の決定

教材の開発—学びのよさを感じ、学習意欲を一層高める教材の開発

発展的な学習や補充学習のための教材の開発

少人数授業のあり方の工夫—打ち合わせ時間の確保

個の学力定着状況を示す個人カルテの作成

読書の習慣化に向けての実践—学級文庫の充実 朝読書の時間 保護者との協力

### 学力等の把握のための学校としての取組

CRT（観点別到達度学力調査）、AAI（学習適応検査）の実施

前学年までの算数科における基礎・基本の習熟と学習への適応の状況を把握し、学習や生活について個々の児童へのきめ細かな指導に生かしていった。

実施学年—3年、5年、教科—算数、実施時期—6月、2月（予定）

検査の結果から、個々の児童について、定着が不十分な学習の内容が把握でき、その後の指導体制、指導法を考え、個々の児童の学力の向上に生かすことができた。特に、両学年共、AAIで学習不適応と診断された児童は、友人関係や家庭環境等の問題が要因となっていた。また、これらの児童は、CRT検査でも学習到達度不十分と診断された児童と重なっていた。児童を意欲的に学習に進めるエネルギーは、安心して学習できる環境が大きく関わっていることを確認した。

この検査の結果を踏まえて、担任は、友人関係や個々の問題を機会を捉えて解決に向かわせ、安心して学習に向かえるように心がけた。また、算数の授業においては、T・T教員と打ち合わせを密にし、学びのよさを感じながら学習ができるように、個々の児童にあった言葉がけをしたり、学習課題を設定したりするように心がけた。さらに、家庭との連携を密にし、個の伸びを伝えるようにした。

今、少しずつであるが、学習に向かう元気がなかった児童が学習を楽しみながら取り組む姿がみられるようになってきている。

児童の学習に対する意識調査 実施学年—全学年、実施時期—10月

各単元に於ける習熟度テストの実施、学期途中での学習定着度テストの実施

実施学年—全学年

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

校内授業研究会の公開

近隣の小中学校に向けて 平成16年2月10日（火）

市内の小中学校に向けて 平成16年10月 開催予定

研究成果普及のためのHP 平成16年4月作成予定

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績

地区別協議会に参加し、本校の研究実践状況の紹介をすると共に、本校職員に他校の取組の状況を報告し、本校研究に生かす。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                       7～12学級  
                          13～18学級                       19～24学級  
                          25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                       T・Tによる指導  
                          一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】             国語                       社会                       算数                       理科  
                          生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                          体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無